

## 麻績村の教育方針に関する研究検討委員会「第1回子育て支援部会」議事録

日時 平成29年6月30日(金) 午前9:00～

場所 麻績村地域交流センター 2F 第3,4研修室

参加者 ・教育委員 塚原明水委員 ・教育委員 坂野かほり委員  
・住民課長 森山正一委員 ・子育て支援担当保健師 升田久美子委員  
・筑北中学校特別支援コーディネーター 清水純子委員  
・保育園長 臼井孝夫委員 ・教育長 飯森力委員  
・子育て支援コーディネーター 市ノ瀬淳一委員  
・ひだまり担当職員 滝澤玲子委員 ・支援担当職員 塩家正和委員  
・麻績小学校特別支援コーディネーター 田中真由美委員(欠席)

### 議事録

#### 1. 開会 飯森教育長より

○昨年の12月から研究検討委員会を開いてきた中で、「保育園・学校部会」「子育て支援部会」「社会教育部会」の3つの部会を設置することとなった。皆さんのご協力をお願いしたい。

#### 2. あいさつ 高野村長より

- 学校統合問題は、結果麻績村、筑北村別となってしまう残念だが、麻績は麻績として具体的に対応をお願いしたい。その中で、金銭面・人材面等で「できること・できないこと」あるだろうが理想的な子育てを行ってほしい。
- 麻績村、筑北村それぞれの村の事情はあるだろうが、いずれにしても一緒になってやっていくことになる。麻績村の教育が地域の模範となるよう事業をさらに変化させより良いものにしてほしい。
- 子育ては、子供を育てる環境づくりが大切である。
- 「すこやか」とは心身ともに、身も心も育てることである。今の家庭の母親の考えですこやかな体作りができるのかには疑問がある。
- 松川村の信大チームとの取組について。子供の健康づくりがいずれ村民全体の健康につながっていく。保健師を中心に若者をターゲットにした健康づくりをしてほしい。
- 昨日の会議でも活発な意見が出た。「平成32年までに」ではなく、できることはすぐに取り組んでほしい。
- いずれ筑北村と一緒にやっていくことになるので、将来を考えて研究を進めてほしい。

高野村長退席

### 3. 会議事項

(1) 麻績村の教育方針に関する研究検討委員会及び子育て支援部会について

(2) 部会長の選出

○規定について確認の上、部会長を互選

委員 : 子育て支援連携協議会の会長の塚原さんでどうだろうか。

一同異議なし

部会長 : 塚原明水委員に決定

塚原明水部会長から

○力不足だが最善を尽くしたい。(麻績村の教育方針に関する研究検討委員会の部会設置規程 第3条の2により)代理を教育委員の坂野さんをお願いしたい。

一同異議なし

副部会長 : 坂野かほり教育委員

(3) 研究検討事項

○資料の確認

・麻績村の教育方針に関する研究検討委員会の概要

・【前研究検討会での方向性のまとめ(概要)】

1. 子育て支援部会関係

・【今後の部会の進め方の概要】

○概要についての質問事項

委員 : 【前研究検討会での方向性のまとめ(概要)】の(4)生まれる前からの情報発信の方法とは？

教育長 : 新婚家庭や妊婦さんへの情報発信をしていくことを確認

委員 : 関係者への周知と勘違いをしていたとのこと

委員 : 【今後の部会の進め方の概要】の1の(1)予算の要望等は11月末までをめどに行うものなのか

教育長 : 子育て支援の関係についてはできるだけ早めにことを進めてほしい。

○教育長から :

みなさんから聞かれた声から【前研究検討会での方向性のまとめ(概要)】の7つの項目が作られた。皆さんの声をこの場に出していただきたい。本部会は学校の先生方が中心でメンバーが構成されている。今皆さんが抱えている課題を出していただき、それぞれで連携を図っていただきたい。保育園、小中学校には特別支援コーディネーターがいるが、それぞれをつなげるコーディネーター、また専門家等もない。今の困り感を出してそれをまとめてほしい。特に子育て連携協議会は村全体の子供が対象である。先ほどの村長あいさつにもあった子供たちの健康への取組等の充実も

図っていききたい。本部会で結論を出すわけではなく、研究を進めていっていただきたい。医療も発達している中で、麻績小にも通級指導教室が設置された。「ひだまり」を行っていく中で保護者が自分の子供の発達に疑問を感じることもあるかもしれない。保護者の認知理解の推進もお願いしたい。

○部会員から

・委員

○今後一貫教育を進めていく上では、現状のように住民課、教育委員会 2 つにまたがった組織が関わるのではなく、子育て支援課のような組織を作って支援をしていくのが望ましいだろう。

○核家族が増え、家庭環境も昔とだいぶ変化してきている。子供の食育に関してもあり。保護者にも食育への理解を深めてもらいたい。

・委員

○村内特別支援教育には、作業療法士の見立てが必要。遊びの教室に昨年度までOT、心理士の関わりがなかったが、今年度から作業療法士に入って乳幼児の見立てをもらっている。すべての関係機関につながるができる専門家が必要だと感じている。

○遊びの教室では母親の養育能力の低さを感じる。

○核家族が増えていることにより、子供たちが祖父母から育ちに関わる情報提供をもらえる機会が減ってきている。

○村全体で全ての親子の底上げを行っていききたい。

○保健師は、住民課付けで村民と福祉との連携の橋渡しとして住民課所属がよいが、教育委員会との連携は密にするべきである。

・委員

○中学を卒業して義務教育が終了してしまうと、卒業生との連絡がなかなか取れない。(対象者の)友達が中学に遊びに来た時に話を聞いて情報を得ている状況である。卒業生に何かあれば周りが動き出すが、そうでなければこちらから何かするということができない。今は卒業時に何かあったら中学に連絡することを学習させてから卒業させている。18歳までの支援をはっきりとさせることができるような道筋ができればありがたい。

○子供たちの声で「この通路が危ない」という意見があり、地区懇談会で意見を提案しているが、改善が見られない。子供からダイレクトに意見が行くのではなく、区長を通すことや予算の関係上とかいろいろな要因があるのだろうが、子供たちからの声を大切にしてほしい。

・委員

- 今日は現場の先生方の話を聞いて勉強するつもりで参加をした。
- 放課後児童クラブやおみっこ元気くらぶ、放課後子ども教室に参加している児童のサポートは手厚い。一方それらに参加していない児童もおり、放課後自転車に乗って遊びに出ている児童もいる。中にはやんちゃな児童もいるので、放課後事業に参加していない児童にも目を配っていきたい。

・委員

- 課題として、来年度から安曇養護学校の中野先生がキッズサポート会議に参加しなくなるため、村の職員として専門職を配置してほしい。
- 子育て連携協議会をはじめとして、内容が似ている会議が多くありすぎる。いろいろな役割等を兼ねながら、会議を精査していく必要があるだろう。

・委員

- 「ひだまり」担当者として、もっと母親に子育てに関心を持ってほしい。
- 子供の寝る時間が遅い等、家庭環境が大きく変化してきている。
- 早くから専門の保健師等に見てもらえるとよい
- 一貫教育を行うのであれば、支援センターがあることが理想である。

・委員

- 麻績では子育てに関する話し合いの場が多くあり、個別の支援計画・指導計画等しっかり作成しているが、その内容が現場の先生に下りていないように感じている。麻績村全体のコーディネーターを配置し、しっかりと機能させ、現場の指導に役立てていく必要があるだろう

・委員

- 住民課職員も教育委員会職員も関わりを持てるような教育センターがあるとよい。塩尻の図書館にはCDが置いてあり、大人も子供も若い人も、みんながセンターを利用している。公民館・教育委員会・住民課が連携し、助け合っていくことが大切である。
- 麻績村子育て支援連携協議会の組織的部分及び事業の見直し等の検討について、子供たちのためにはよいが、未就園・高校の支援が抜けてしまう。組織の見直しが必要である。
- 小さい時に何を食べたかが、成長時の好き嫌いにつながってしまう。
- 自分も「ひだまり」に行って、若いお母さんたちと子育てについて話したい。
- 放課後事業について、職員がいろいろとがんばってくれているが、子育て経験者ではない職員が関わっている。子育てにビジョンが持てないので、手だてがない状態で事業を運営しているのが現状である。また、昔遊びの会の方々が関わってくださ

っているが、会員の高年齢化が進んできている。今後の課題である。

○教育長から：

今日たくさんの意見をいただいた。これから課題解決をしていきたい。本日の議事録をもとにいろいろと意見を頂ければと思う。

・委員

○次回は【前研究検討会での方向性のまとめ（概要）】の（１）のことを具体的に検討していく。

4. その他

5. 次回開催日程（予定）

平成 29 年 8 月 9 日 午前 9 時から

麻績村地域交流センター 2F 第 3・4 研究室